

平成 27 年度第 1 回郷土文化館協議会 概要

1 日時 平成 27 年 8 月 26 日（水） 午後 2 時～3 時 30 分

2 会場 松永記念館 本館 2 階和室

3 出席者

(1) 郷土文化館協議会委員

一寸木委員長、奥野副委員長、明石委員、渋谷委員、鳥居委員、中村委員、平塚委員

(2) 市事務局側

栢沼教育長、諸星文化部長、安藤文化部副部長、友部生涯学習課長、岡郷土文化館係長、中村主事、大貫主事、保坂主事補

4 会議の概要

新任委員への委嘱状交付、教育長挨拶、各委員紹介、職員異動報告に続き、議事に入った。議事の進行は一寸木委員長が行った。

(1) 議題 1「平成 26 年度 郷土文化館事業報告」

このことについて、まず会議資料に従って事務局から概要を報告した。報告後、次のような討議が行われた。

① 平成 26 年度入館者について

委員より、団体入館者数について、学校が何校で何人来ているのかなどの詳細についても記載すべきとの意見があった。

また、学校が忙しく、博物館になかなか来ることができないと言われる中で来館している学校について、どの地域から来館しているのか、来館した理由等を確認し、分析する必要がある。今後の学校利用促進や今構想している新しい博物館の参考にできるなどの意見が出された。

このことについて、事務局より、次回以降の資料の掲載方法を検討すると回答した。

② 平成 26 年度展示事業概要について

委員から、特別展だけではなく、博物館の展示の基本である常設展示についても資料の中に掲載すべきであるとの指摘があった。常設展示の計画的な展示替えについて検討し、また、ルーティンの展示替えだけではなく、テーマや季節に応じた展示替えなども検討する必要がある。ほかにも御用米曲輪の発掘成果など、タイムリーな展示を常設展示の中で行っていくべきとの意見が出された。

これについて、事務局から、企画展等を行う場合には専用の部屋がないことから常設展を一部撤収して行っており、その機会に常設展の一部展示替えを実施することが多いことと、年度末に 10 日程度期間を取り、展示替えと館内整理を行っているところであり、徐々にではあるが、改善をしている旨を説明した。また、文化財課と連携し、発掘成果の速報展的な展示の機会も持っており、今後も連携をとりつつ実施していきたい旨を説明した。

常設展示については今後、計画を立てて更新していきたいと考えており、次回からの会議では常設展示の展示計画について資料に掲載する形で掲載方法を検討すると回答した。

③ 平成 26 年度資料調査・収集・管理等業務実施概要について

委員から、収蔵庫の燻蒸について、資料には使用している薬剤名まで掲載すべきとの意見が出された。

このことについて、事務局から次回以降の資料に掲載する旨を回答した。

(2) 議題 2「平成 27 年度 郷土文化館事業」について

このことについて、まず事務局から会議資料に従って概要を報告した。報告後、次のような討議が行われた。

① 平成 27 年度資料展示事業実施計画について

委員より、その他の展示の「岩手県宮古市と小田原市の文化財交流展」について、東日本大震災の後、文化財レスキューの動きがあったかという質問が出された。

これについて、事務局より、初期の頃に文化財課で動きがあったかと思うが、郷土文化館では特になかった旨回答した。

委員より、当時の現状や復興のプロセスも一緒に展示することができれば学校の防災教育などの面でも良いのではないかといった意見が出された。

これについて、事務局より、今回の展示は文化財課主体の展示である旨を説明し、いただいた意見は担当者に伝える旨を回答した。

② 平成 27 年度資料調査・収集・管理等業務実施計画（案）について

委員より、資料調査について、板橋内野家の資料に生業関係資料とあるが、資料の内容について商売に関する資料なのかといった質問が出された。

このことについて、事務局より、文書的な資料が多い旨を回答したところ、委員より、会議資料には資料の内容が分かるように掲載すべきであるとの意見が出された。同様に、資料収集の部分も資料群の受け入れについて、一括資料の資料群の説明があった方が良いとの意見が出された。

また、委員より、箱根ジオパークに南足柄市が加わる動きもあり、小田原から南足柄に運ばれた久野石などについても文化財課や神奈川県立歴史博物館と連携しつつ資料調査を進めていけたら良いのではないかという意見が出された。

また、委員より、戦後 70 年に関連して戦時下資料を収集する動きがあるのではないかの質問があった。

これについて、事務局より、郷土文化館に直接話がある場合もあるが、総務課が平和事業を進めている関係もあり、総務課に話が行く場合も多い旨を回答した。

これに対し委員より、市でどこが担当するのかというのは難しいかとも思うが、戦時下の小田原地方を記録する会とも連携しつつ、郷土文化館も核となり進めていくのが良いので

はないかとの意見が出された。

委員より、民俗資料の資料整理の状況について、未整理の資料がかなりあるのかという質問があった。

このことについて、事務局より、未整理の資料がかなりある状況であるが、民俗担当学芸員が新規に採用され、現在全体を把握しつつ、今後どのように整理を進めていくか計画を作っている段階である旨を回答した。

これに関連して委員より、資料のデータ把握の方法について、デジタルデータでなされているのか紙でしているのかという質問があった。

このことについて、事務局より、基本的には紙の台帳およびカードでしており、一部の文書などを除き、デジタルデータ化には至っていない旨を回答した。

これに対して委員より、資料整理は博物館の基本であり、博物館構想を進めていく上で資料の移管を考えると所蔵資料のデータ把握は急務である。資料整理を進める上で、資料の画像を添付するならば、デジタルデータの方が良いのではないかと。まずは紙の台帳とカードを実際の資料と照合しつつ、順次デジタルデータに移行していくのが良いのではないかと意見が出された。

また、委員より、神奈川県立生命の星・地球博物館や平塚市博物館のように、市民ボランティアと共働して資料整理を進める方法もあるので、参考にしたら良いのではないかと意見が出された。

(3) その他

① 小田原市博物館構想について

委員より、博物館を建設することについて市民に向けて正式に発表されたのかという質問があった。

このことについて、事務局から、博物館構想策定委員会を立ち上げ、構想に取り組むことはすでに発信しているが、具体的な内容の発表については構想を取りまとめた後になる旨を説明した。

このことに対して委員より、資料の中でも特に現代史資料については集めるのが難しいので、資料収集の選択ルールや受付窓口を作り、市民に向けて「博物館を造るので、資料収集をする」など発信するのも良いのではないかと。そのことによって新しい博物館のPRともなり関心も高まるのではないかと。その際には郷土文化館が核となるのではないかとといった意見が出された。

② 全体について

委員より、次回会議の際には簡単でかまわないので、今回の会議の要点を添えたら良いのではないかとといった意見が出された。

討議終了後、現地にて松永記念館整備活用事業の進捗状況及び特別展「生誕 140 年 松永安左エ門」の見学をした後、散会した。